



# 学校だより

10月号

令和2年9月30日

## 友達とともに創り上げる

校長 青木 和裕

「ああ、気持ちいい。いやされる。」

日光湯元源泉近くの、「あんよのゆ」に足を浸した6年生の、思わず口をついて出たつぶやきです。

9月10・11日、一泊二日で日光修学旅行に行ってきました。今年は、実施自体が危ぶまれ、報道のように自治体で統一して宿泊学習の中止を決定したところも少なくありません。本校でも、実施に至るまで綿密な準備と熟慮を重ねてまいりました。赤城林間学園が予約できたことで、三密回避のめどが立ち、小学校生活最後の宿泊行事を何としても子どもたちに経験させてあげたい、という6年担任の情熱と、それを支える教職員集団の存在が、大きかったと思います。もちろん、子どもたちの修学旅行にかける思いと、その思いを温かく受け止め、日頃のお子様の健康観察や体調管理に意を尽くしていただいた保護者の皆様のご理解とご協力なくして、この行事の成功はなかったと思います。



そして、あらためて「五感を働かせて体験する」ことの価値を再認識いたしました。自分が踏みしめている同じ大地に立つ鹿。細かな彫刻に目を見張った、東照宮の陽明門。ナイトウォークで感じた、真の暗闇。(ポイントごとに待っていた先生たちも、怖かったんです。)いつまでも余韻が残る、澄んだ「鳴竜」の鳴き声。「温泉卵の匂いだ。」と叫んだ湯元源泉。とんぼが舞う中で食べたお弁当の味。差し出す指にとまるとんぼ。体に降りかかる華巖の滝の水しぶき。輝きを増せとばかりに10円玉を浸す源泉の熱さ。……今はやりのバーチャル旅行では、決して感じることはできなかつたでしょう。そして、これらの体験がさらに輝きを増したのは、そばに友達がいたからだと思います。

「バスの中で、〇〇の映画を見ました。一回家族で見たことがあり、話の内容は知っているはずなのに、初めて見たかのようにみんなと一緒に笑うことができました。行く前は、バスいやだなあ、と思っていました。でも、その長い長いバスも、みんなで映画を見たり景色を見たりしていたら、あっという間でした。やっぱりみんなと一緒にいることが大切なんだと、あらためて思いました。」

秋季大運動会については、すでにお知らせしたような形で行います。無観客開催、学年ごとに時間をずらしての開催、運動会自体の中止と、同じ横浜市内でもいろいろな選択肢や方法がある中、本校では、学校教育目標に照らしたためあての実現に向けて、保護者をお招きしての全校規模での開催を決めました。友達とともに創り上げ、切磋琢磨しながら、学び合い、認め合う運動会を目指したからです。各家庭の人数や参観場所への立ち入り等の制限、保護者証・検温票・学年色リボンの着用等、ご協力をお願いすることが多く、申し訳ございません。制約がある中で最大のパフォーマンスを子どもたちが発揮できるよう、教職員一同指導・支援をしているところです。当日は、温かい応援の拍手をよろしく願いいたします。